

平成7年度厚生省心身障害研究

「望まない妊娠により出生した児及び母親のケアに関する研究」

－児童相談所を利用する児と親の調査－

研究協力者 藤井和子
国立精神神経センター
精神保健研究所

目的：

女性の社会進出、高学歴化、核家族化、生殖をめぐる驚異的な科学技術の開発といった社会的、経済的、科学的な変化とともに個人のライフサイクルにおける子どもを産み育てることの価値観にも大きな変化をもたらしている。そうした背景の中で家庭の子育て機能の低下が取りざたされて久しい。

児童相談所において取り扱う養護相談は家庭での養育が困難になった、即ち、養育機能を欠いた端的な例と考えられ、こうした親子は精神保健上きわめてハイリスクであると推測される。

本研究においてはこうした児童相談所を利用する親に対しての実態調査を行うことを第一の目的とした。第二に本研究班において上林、北らが疫学調査を行っており、それらと児童相談所の臨床ケースとの比較を行うことで、それぞれが必要とされる援助の方法を考察することを目的とした。

平成6年度は乳・幼の養護相談を対象に児童相談所の職員による聞き取り調査を行う予定で調査票を作成し、パイロット調査を試みた。しかし対象事例の条件があまりに多様であり、妊娠し、出産した母親本人、または父親への調査が困難であるなどから計画の再検討を余儀なくされた。

平成7年度は前年の経過をふまえ、調査方法、調査対象を変更して行った。

「方法」

対象：児童相談所を利用する児の親へのアンケート調査

相談の種別・児の年齢・性別を問わない。

初回相談・相談継続中かを問わない。

実施方法：アンケートの調査票は児童相談所の職員から協力を要請してもらい、記入者は記載後封をしたものを職員が回収する方法をとった。

各施設2カ月間を目途として母親用50、父親用10を依頼した。

協力依頼した施設：

埼玉県内	6	児童相談所
千葉県内	2	児童相談所
宮城県内	1	児童相談所
石川県内	1	児童相談所

現在調査継続中である。協力施設を増やし平成8年6月に調査票の回収を終了し、統計処理と考察を行う予定である。

アンケート調査のご協力をお願い

国立精神神経センター精神保健研究所
児童・思春期精神保健部

現代の社会は安心して子を生み、健やかに子を育てることがたいへんむづかしい状況になっていると思います。

私達は日ごろ調査、研究また相談活動を通して、「子どもの発達やこころの健康」について研究を行っております。今回厚生省の委託を受け、妊娠・出産・育児をする中で親たちがどんな事を困難と思い、どのような援助を必要としているのか、具体的に知ることによってよりよい子育て環境づくりへの提言をしたいと考えています。多くの方々からの情報をいただきくため同様な調査をいくつかの地域で行っております。

アンケートの結果は統計的に処理されます。個人のデータとして取り上げるような事は絶対ないことをお誓いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

《 記入のしかたについて 》

1. 封筒の中にボールペンが入っています。
2. ご相談に来られているお子さんについてご回答ください。
3. お答えの方法は、該当するところを丸でかこむか、□の中を☑のようにチェックしていただくか、または自由に記述していただくかになっています。
4. アンケートは無記名です。
5. 記入された調査票は研究所あての封筒に入れ、封をして（テープをはがすとのりづけ出来ます）相談所の方にお渡し下さい。
6. ボールペンとクリアファイルはお礼の品とさせていただきます。ご利用下さい。

調査責任者

児童・思春期精神保健部

児童期精神保健研究室長

藤井和子

連絡先：市川市国府台1-7-3

電話 0473-72-0141

ファクシミリ 0473-75-4766

子どもと親の精神保健に関する調査

記入者 母・その他

A. はじめに、ご相談されているお子さんについておうかがいします。

1. お子さんの生年月日 昭・平 年 月 日生 年齢 才 月 (男・女)
2. このお子さんの実の兄弟姉妹は
 このお子さんを入れて _____人
 このお子さんは _____番目

B. このお子さんの妊娠・妊娠中のことについておうかがいします。

- 3-1. お子さんを妊娠した時、あなたは () 才 . 子どもの父親は () 才
- 3-2. お子さんの妊娠はあなたにとって何回目の妊娠ですか。 _____ 回目
- 3-3. この子の父親にとっては何人目のお子さんですか。 _____ 人目
4. このお子さんの妊娠と、あなたが望んでいた時期についてお聞かせ下さい。
¹早かった ²ちょうどだった ³遅かった
⁴いつでもよいと思っていた ⁵すでに子どもがいたので欲しくなかった。
⁶子どもはずっと欲しくなかった
- 5-1. お子さんの妊娠と、この子のお父さんが望んでいた時期についてお聞かせ下さい。
¹早かった ²ちょうどだった ³遅かった
⁴いつでもよいと思っていた ⁵すでに子どもがいたので欲しくなかった
⁶子どもはずっと欲しくなかったようだ。
⁷ わからない
6. お子さんの妊娠中、検診を受けましたか。
¹ 15回以上 ² 8-14回 ³ 7回以下 ⁴ 0回
7. 母親学級に参加しましたか。
¹ 5回以上 ² 1-4回 ³ 0回
8. 妊娠中あなたはたばこをすいましたか。
¹ふだんからすわない ²妊娠中はすわなかった
³すったことがあった ⁴毎日すっていた
9. 妊娠中あなたはお酒を飲みましたか。
¹ふだんから飲まない ²妊娠中は飲まなかった
³飲んだことがあった ⁴毎週飲んでいました
10. お子さんの妊娠中にあなたが病気で治療や検査を受けたことがありましたか。
¹はい (具体的に説明して下さい)
²いいえ
11. 妊娠中、薬を使用しましたか。
¹はい なんの薬ですか、のんだのはいつごろですか。
²いいえ

12. 妊娠中のあなたの気持ちにあてはまるものに○をつけてください。(いくつでも)
1. 妊娠したとわかった時うれしかった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
 2. 妊娠中自分のことでストレスがあって大変だった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
 3. 自分が病気などして、心配した。 [はい・どちらでもない・いいえ]
 4. 生まれてくる子のことが楽しみだった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
 5. 妊娠中、家庭内に気苦労が多くて大変だった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
 6. 妊娠は身体的に苦しくつらかった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
 7. 経済的に不安定だった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
 8. 妊娠のために仕事や職場との葛藤があった [はい・どちらでもない・いいえ]
 9. 出産するか、しないか迷ったことがある。 [はい・いいえ]

C. お子さんの出産時のことについておうかがいします。

13. お子さんの出産に際して以下のことがありましたか。

- ¹陣痛をおこす薬の使用 ²難産 ³さかご ⁴鉗子分娩 ⁵吸引分娩
⁶帝王切開 ⁷へその緒が首に巻きついていた ⁸早期破水 ⁹仮死
¹⁰分娩が遅れた ¹¹その他 _____

14. お子さんは生まれつきの身体の異常を指摘されましたか。

- ¹はい (具体的に説明して下さい))
²いいえ

- 15-1. 出産の前後手伝ってくれる人がいましたか。

- ¹はい (それは誰ですか))
²いいえ

(15-1. に「はい」と答えた方に)

- 15-2. ¹とても安心してきて助かった。 ²気がねしたが助かった。

- ³手伝ってもらわない方がよかった。

16. 出産は、経済的に負担に思いましたか。

- ¹はい ²いいえ

17. 子どもを出産した頃のあなたの気持ちにあてはまるところに○をつけてください。

1. 出産は達成感があってよかった。 1 [はい・どちらでもない・いいえ]
2. 育児に対する不安があった。 2 [はい・どちらでもない・いいえ]
3. 自分の仕事との関係でなやみがあった 3 [はい・どちらでもない・いいえ]
4. 赤ちゃんがとてもかわいと感じていた。 4 [はい・どちらでもない・いいえ]
5. 家族でもめることがあった。 5 [はい・どちらでもない・いいえ]
6. 赤ちゃんの世話が大変であった。 6 [はい・どちらでもない・いいえ]
7. 家族の育児への協力に満足していた。 7 [はい・どちらでもない・いいえ]

18. あなたは妊娠・出産の前に仕事をしておられましたか [はい・いいえ]

19. あなたは現在仕事をしておられますか [はい・いいえ]

(はい) の方に、仕事時間中はお子さんの養育は

家族(養育者は _____) 保育園・幼稚園・学童保育・その他(_____)

20. 子どもはあと何人欲しいですか _____ 人

21. 出産によってあなたの将来設計を変更せざるをえない事がありましたか

- ¹いいえ

- ²はい (どんなことですか。)

D. お子さんによってはしつけしにくかったり、病弱だったり、神経質だったり育てにくい子どもがいます。このおさんはどうでしたか。

22. おさんは2才頃までに病気やけがで治療を受けましたか。

¹ はい (どのようなことですか)

² いいえ

23. このおさんのどの時期に心配したり悩むことが多かったですか。それは主にどんなことでしたか。()の中に簡単に書いて下さい。(いくつでも)

¹ 1才頃まで (

² 2才～3才頃 (

³ 4才～6才頃 (

⁴ 小学校 年生の頃 (

⁵ 中学校 年生の頃 (

⁶ 生まれてから今までずっと育てにくいと感じている

⁷ どちらかいうと育てやすい子である。

24-1. 心配したり悩んだりしたとき家族や社会からどのような援助が欲しかったですか。

25. おさんの発達や健康について心配なことがありますか。

¹ はい (具体的に説明して下さい)

² いいえ

26. あなたの夫は、お子さんの育児できまった役割をはたしていますか。

¹ はい (具体的に説明して下さい)

² いいえ

27. 身近に育児のことなど気軽に相談する人がいますか。

¹ はい それはだれですか。該当する人を○でかこんで下さい。
夫・自分の親・夫の親・友達・その他 ()

² いいえ

28. ご近所や地域の人たちとのつきあいはありますか。

¹ ある ² ない

28-1. ご近所や地域の人との関係はいかがですか

¹ うまくいっている ² まあまあうまくいっている ³ 良くない

⁴ つきあいたいと思う人がいない ⁵ できれば近所つきあいはしたくない

29. 安心して子どもを産み育てることができるために、社会や家族に望むことがありましたらどんなことでもご記入下さい。

E. このお子さんの現在のご家族についてお聞かせください。

30. 父親は実父・継父 年齢 ____才 同居・別居 (最終卒業校 中 高 専門 大学 (院))
31. 母は 年齢 ____才 同居・別居 (最終卒業校 中 高 専門 大学 (院))
32. 兄弟は何人ですか (実子、養子、継子を含めて) ____人
33. このお子さんは何番目ですか ____番目
34. この他に同居の家族がいますか。
¹あり (父方祖父・祖母、母方祖父・祖母 その他 _____)
²なし
35. 同居、別居にかぎらず、ご家族の健康のことで問題、ご心配なことがありましたらご記入下さい。

F. ご夫婦の会話についておうかがいします。(もしもお一人の場合には、ご夫婦が一諸におられた時について差し支えなかったらお答ください。

36. あなたがたご夫婦は、日々の暮らしの問題についてどのくらい会話をしていますか。(していましたか)。(1つだけに○をつけて下さい)
¹毎日のように話す ²週に2~3回くらい話す
³月に2~3回くらい話す ⁴ほとんど話さない
37. その内容はつぎのうちどんな話題が多い(多かった)ですか(多いものから2つ選んで下さい)
¹家計のこと ²子どものこと ³レジャーや趣味のこと
⁴将来生活設計のこと ⁵職業上のこと ⁶地域社会のこと
⁷その他 [具体的に]
38. ご夫婦で会話されるときは通常どのようにしてすすめられて行くことが多い(多かった)ですか。1つを選んで下さい。
¹自分も夫とともに自分の意見を言い、相手の話しに耳を傾ける
²自分がほとんど一方的に話しをするだけで、夫は黙って聞いている
³夫がほとんど一方的に話しをするだけで、自分は黙って聞いている
⁴自分と夫の意見が対立し、2人の間にぎくしゃくした感じが残る
39. ご夫婦の会話について、現在あなたは満足していますか(満足でしたか)。
¹はい ²いいえ ³どちらともいえない
40. その他 なにかご意見、ご提案などありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

アンケート調査のご協力をお願い

国立精神神経センター精神保健研究所
児童・思春期精神保健部

現代の社会は安心して子を生み、健やかに子を育てることがたいへんむづかしい状況になっていると思います。

私達は日ごろ調査、研究また相談活動を通して、「子どもの発達やこころの健康」について研究を行っております。今回厚生省の委託を受け、妊娠・出産・育児をする中で親たちがどんな事を困難と思い、どのような援助を必要としているのか、具体的に知ることによってよりよい子育て環境づくりへの提言をしたいと考えています。多くの方々からの情報をいただきため同様な調査をいくつかの地域で行っております。

アンケートの結果は統計的に処理されます。個人のデータとして取り上げるような事は絶対ないことをお誓いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

《 記入のしかたについて 》

1. 封筒の中にボールペンが入っています。
2. ご相談に来られているお子さんについてご回答ください。
3. お答えの方法は、該当するところを丸でかこむか、□の中を☑のようにチェックしていただくか、または自由に記述していただくかになっています。
4. アンケートは無記名です。
5. 記入された調査票は研究所あての封筒に入れ、封をして（テープをはがすとおりづけ出来ます）相談所の方にお渡し下さい。
6. ボールペンとクリアファイルはお礼の品とさせていただきます。ご利用下さい。

調査責任者
児童・思春期精神保健部
児童期精神保健研究室長
藤井和子

連絡先：市川市国府台1-7-3
電話 0473-72-0141
ファクシミリ 0473-75-4766

子どもと親の精神保健に関する調査

記入者 父・その他

A. はじめに、ご相談されているお子さんについておうかがいします。

1. お子さんの生年月日 昭・平 年 月 日生 年齢 才 月 (男・女)
2. このお子さんの実の兄弟姉妹は
 このお子さんをいれて _____ 人
 このお子さんは _____ 番目

B. このお子さんの妊娠・妊娠中のことについておうかがいします。

- 3-1. お子さんを妊娠した時、あなたは () 才 . 子どもの母親は () 才
- 3-2. お子さんの妊娠は母親にとって何回目の妊娠ですか。 _____ 回目
- 3-3. この子の父親 (あなた) の実子としては何人目のお子さんですか。 _____ 人目
4. このお子さんの妊娠と、あなたが望んでいた時期についてお聞かせ下さい。
¹早かった ²ちょうどだった ³遅かった
⁴いつでもよいと思っていた ⁵すでに子どもがいたので欲しくなかった。
⁶子どもはずっと欲しくなかった
- 5-1. お子さんの妊娠と、この子のお母さんが望んでいた時期についてお聞かせ下さい。
¹早かった ²ちょうどだった ³遅かった
⁴いつでもよいと思っていた ⁵すでにに子どもがいたので欲しくなかった
⁶子どもはずっと欲しくなかったようだ。
⁷わからない
6. お子さんの妊娠中、母親は検診を受けましたか。
¹ 15回以上 ² 8-14回 ³ 7回以下 ⁴ 0回 ⁵わからない
7. お子さんの妊娠中、母親は母級学級に参加しましたか。
¹ 5回以上 ² 1-4回 ³ 0回 ⁴ わからない
8. 妊娠中、母親はたばこをすいましたか。
¹ふだんからすわない ²妊娠中はすわなかった
³すったことがあった ⁴毎日すっていた
9. 妊娠中、母親はお酒を飲みましたか。
¹ふだんから飲まない ²妊娠中は飲まなかった
³飲んだことがあった ⁴毎週飲んでいた
10. お子さんの妊娠中に母親が病気で治療や検査を受けたことがありましたか。
¹はい (具体的に説明して下さい)

²いいえ ³わからない
11. 妊娠中、母親は薬を使用しましたか。
¹はい (何の薬ですか、のんだのはいつ頃ですか)

²いいえ ³わからない

12. 妊娠中のあなたの気持ちにあてはまるものに○をつけてください。

1. 妊娠したとわかった時うれしかった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
2. 妊娠中自分のことでストレスがあって大変だった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
3. 自分が病気などして、心配した。 [はい・どちらでもない・いいえ]
4. 生まれてくる子のことが楽しみだった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
5. 妊娠中、家庭内に気苦労が多くて大変だった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
6. 妊娠は母親にとって身体的に苦しくつらそうだった。 [はい・どちらでもない・
いいえ]
7. 経済的に不安定だった。 [はい・どちらでもない・いいえ]
8. 出産するか、しないか迷ったことがある。 [はい・いいえ]

C. お子さんの出産時のことについておうかがいします。

13. お子さんの出産に際して以下のことがありましたか。

- ¹陣痛をおこす薬の使用 ²難産 ³さかご ⁴鉗子分娩 ⁵吸引分娩
⁶帝王切開 ⁷へその緒が首に巻きついていた ⁸早期破水 ⁹仮死
¹⁰分娩が遅れた ¹¹その他 _____

14. お子さんは生まれつきの身体の異常を指摘されましたか。

- ¹はい (具体的に説明して下さい)
²いいえ

15-1. 出産の前後手伝ってくれる人がいましたか。

- ¹はい (それは誰ですか)
²いいえ

(15-1. に「はい」と答えた方に)

15-2. ¹とても安心できて助かった。 ²気がねしたが助かった。

³手伝ってもらわない方がよかった。

16. 出産は、経済的に負担に思いましたか。

- ¹はい ²いいえ

17. 子どもを出産した頃のあなたの気持ちにあてはまる場所に○をつけてください。

1. 出産はうれしかった。 1 [はい・どちらでもない・いいえ]
2. 育児に対する不安があった。 2 [はい・どちらでもない・いいえ]
3. 自分の仕事との関係でなやみがあった 3 [はい・どちらでもない・いいえ]
4. 赤ちゃんがとてもかわいいと感じた。 4 [はい・どちらでもない・いいえ]
5. 家族でもめることがあった。 5 [はい・どちらでもない・いいえ]
6. 赤ちゃんの世話が大変であった。 6 [はい・どちらでもない・いいえ]
7. 妻は私の育児への協力に満足していた。 7 [はい・どちらでもない・いいえ]

18. あなたは妊娠・出産の前に仕事をしておられましたか [はい・いいえ]

19. あなたは現在仕事をしておられますか [はい・いいえ]

(はい)の方に、仕事時間中はお子さんの養育は

家族(養育者は _____) 保育園・幼稚園・学童保育・その他(_____)

20. 子どもはあと何人欲しいですか _____ 人

21. 出産によってあなたの将来設計を変更せざるをえない事がありましたか

- ¹はい (どんなことですか)

²いいえ

D. お子さんによってはしつけしにくかったり、病弱だったり、神経質だったり育てにくい子どもがいます。このおさんはどうでしたか。

22. おさんは2才頃までに病気やけがで治療を受けましたか。

¹はい (どのようなことですか)

²いいえ

23. このおさんのどの時期に心配したり悩むことが多かったですか。それは主にどんなことでしたか。ありましたら () の中に簡単に理由を書いて下さい。

¹才頃まで (

²2才～3才頃 (

³4才～6才頃 (

⁴小学校 年生の頃 (

⁵中学校 年生の頃 (

⁶生まれてから今までずっと育てにくいと感じている

⁷どちらかいうと育てやすい子である。

24-1. 心配したり悩んだりしたとき家族や社会からどのような援助が欲しかったですか。

25. おさんの発達や健康について心配なことがありますか。

¹はい (具体的に説明して下さい)

²いいえ

26. あなたは、ふだんお子さんと一緒に何かすることがありますか。

¹はい (具体的に説明して下さい)

²いいえ

27. 身近に育児のことなど気軽に相談する人がいますか。

¹いる。それはだれですか。該当する人を○でかこんで下さい。

妻・自分の親・妻の親・友達・その他 ()

²いない

28. あなたはご近所の人たちとのつきあいはありますか

¹はい ²いいえ

28-1 あなたとご近所との関係はいかがですか

¹うまくいっている ²まあまあうまくいっている ³良くない

⁴つきあいたいと思う人がいない ⁵できれば近所つきあいはしたくない

29. 安心して子どもを産み育てることができるために、社会や家族に望むことがありましたらどんなことでもご記入下さい。

E. このお子さんの現在のご家族についておうかがいします。

このお子さんにとって

30. 父は実父 年齢 ____才 同居・別居 (最終卒業校 中 高 専門 大学 (院))
31. 母は実母・継母 年齢 ____才 同居・別居 (最終卒業校 中 高 専門 大学 (院))
32. 兄弟は何人ですか (実子、養子、継子を含めて) ____人
33. このお子さんは ____番目
34. その他に同居の家族がいますか。
¹あり (父方祖父・祖母、母方祖父・祖母 その他____)
- ²なし
35. 同居、別居に限らずご家族の健康について問題や心配がありましたらご記入下さい。

F. ご夫婦の会話についておうかがいします。もしもお一人の場合には、ご夫婦一緒におられた時について差し支えなかったらお答下さい。

36. あなたがたご夫婦は、日々の暮らしの問題についてどのくらい会話をしていますか。
(1つだけに○をつけて下さい)
- ¹毎日のように話す ²週に2~3回くらい話す
- ³月に2~3回くらい話す ⁴ほとんど話さない
37. その内容はつぎのうちどんな話題が多いですか (多いものから2つ選んで下さい)
- ¹家計のこと ²子どものこと ³レジャーや趣味のこと
- ⁴将来生活設計のこと ⁵職業上のこと ⁶地域社会のこと
- ⁷その他 [具体的に]
38. ご夫婦で会話されるときは通常どのようにしてすすめられて行くことが多いですか。
1つを選んで下さい。
- ¹自分も妻もともに自分の意見を言い、相手の話しに耳を傾ける
- ²自分がほとんど一方的に話しをするだけで、妻は黙って聞いている
- ³妻がほとんど一方的に話しをするだけで、自分は黙って聞いている
- ⁴自分と妻の意見が対立し、2人の間にぎくしゃくした感じが残る
39. ご夫婦の会話について、あなたは満足していますか
- ¹はい ²いいえ ³どちらともいえない
40. その他 なにかご意見、ご提案などありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的:

女性の社会進出、高学歴化、核家族化、生殖をめぐる驚異的な科学技術の開発といった社会的、経済的、科学的な変化とともに個人のライフサイクルにおける子どもを産み育てることの価値観にも大きな変化をもたらしている。そうした背景の中で家庭の子育て機能の低下が取りざたされて久しい。

児童相談所において取り扱う養護相談は家庭での養育が困難になった、即ち、養育機能を欠いた端的な例と考えられ、こうした親子は精神保健上きわめてハイリスクであると推測される。本研究においてはこうした児童相談所を利用する親に対しての実態調査を行うことを第一の目的とした。第二に本研究班において上林、北らが疫学調査を行っており、それらと児童相談所の臨床ケースとの比較行うことで、それぞれが必要とされる援助の方法を考察することを目的とした。

平成6年度は乳・幼の養護相談を対象に児童相談所の職員による聞き取り調査を行う予定で調査票を作成し、パイロット調査を試みた。しかし対象事例の条件があまりに多様であり、妊娠し、出産した母親本人、または父親への調査が困難であるなどから計画の再検討を余儀なくされた。

平成7年度は前年の経過をふまえ、調査方法、調査対象を変更して行った。